

〈隔週連載〉



半田 滋の

Handa Shigeru

新・安全保障論

第 121 回

台湾防衛のために 日常破壊された与那国島

8月に当選した新町長の反対で見送られたが、高機動ロケット砲システム「ハイマース」とオスプレイが配備される予定だった。

南に目を向けると、今年4月、フィリピンで行なわれた米比共同訓練「バリカタン25」で台湾とフィリピンの間にあるバタネス諸島のバタン島などに「ネメシス」が配備された。

自衛隊は今年から正式に加わり、護衛艦1隻がフィリピン周辺海域で米比共同訓練に参加した。

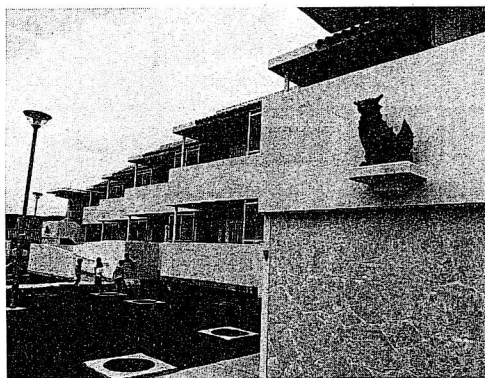
台湾を挟んで行なわれた日米比の共同訓練は、中国による台湾侵攻の抑止と対処を目的にしている。台湾侵攻抑止を政策に掲げる米国はともかく、なぜ日比まで足並みを揃えるのか。

日本の場合、専守防衛を踏み越えるものの、安倍晋三政権が制定した安全保障関連法を根拠に「密接な関係にある他国」にあたる米

国と米軍を守る狙いがある。

一方、フィリピン政府の最大の懸念は台湾に約20万人いる自国民の保護であり、次にはバタネス諸島の防衛にあると伝えられる。

このため、比軍は8月、バタン島に前線作戦基地を新設した。隊員家族向けの宿舎を併設する自衛隊と違って、家族宿舎はない。石垣、与那国の自衛隊駐屯地を視察したれいわ新選組議員団の伊勢崎賢治参院議員がその理由を友人の



沖縄・与那国町の自衛隊家族宿舎。(筆者撮影)

比軍大佐に聞いたところ、「最前線に家族を連れて行くのは狂気の沙汰だ」との回答があった。

与那国では、隊員約230人に対し、約70人の家族が住むにすぎない。自衛隊誘致により、同行する家族も増えて町おこしになるとの期待は外れた。地元の飲食業、猪股哲さんは「もともとの島民は出て行き、自衛隊の家族宿舎もスカスカ。政府がアメを与えたのは最初だけだった」と指摘する。

与那国の生活インフラは壊滅状態にある。歯科医はとうに消え、医師を派遣する地域医療振興協会から来年4月以降の派遣打ち切りの通告があった。薬局の事業者が代わり、受診した患者が当日に処方薬を受け取れなくなった。昨年、特別養護老人ホームの運営事業者が撤退した。

対米追従のシンボルである台湾防衛のために、離島の日常が破壊されている。国防は国の専管事項と言われるが、国民の犠牲のうえに成り立つ国防などない。

はんだ しげる・防衛ジャーナリスト。近著に「パラレル 憲法から離れる安保政策」(地平社)。